

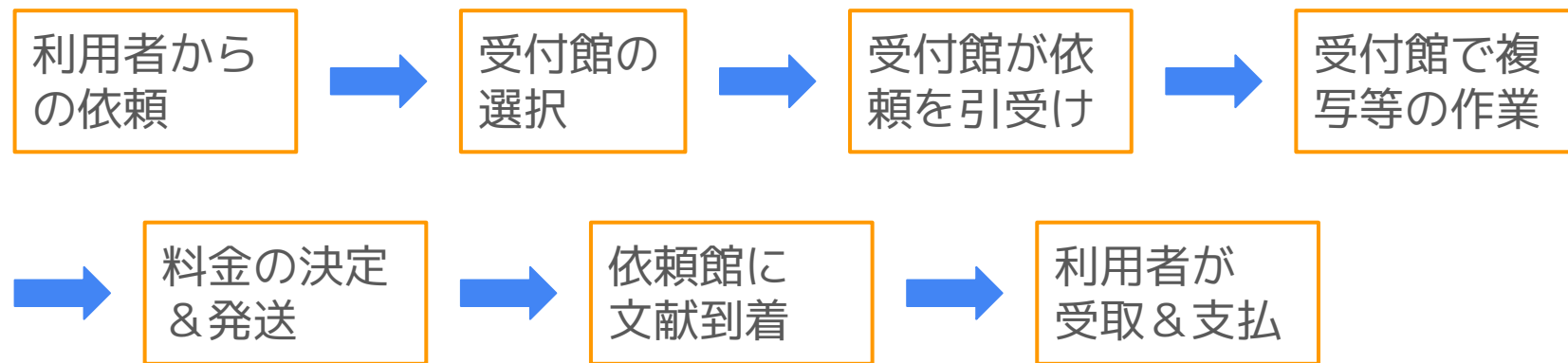
②新しい料金決済制度について

島根大学附属図書館
青柳 和仁

現在のNACSIS-ILLの課題（当社比）

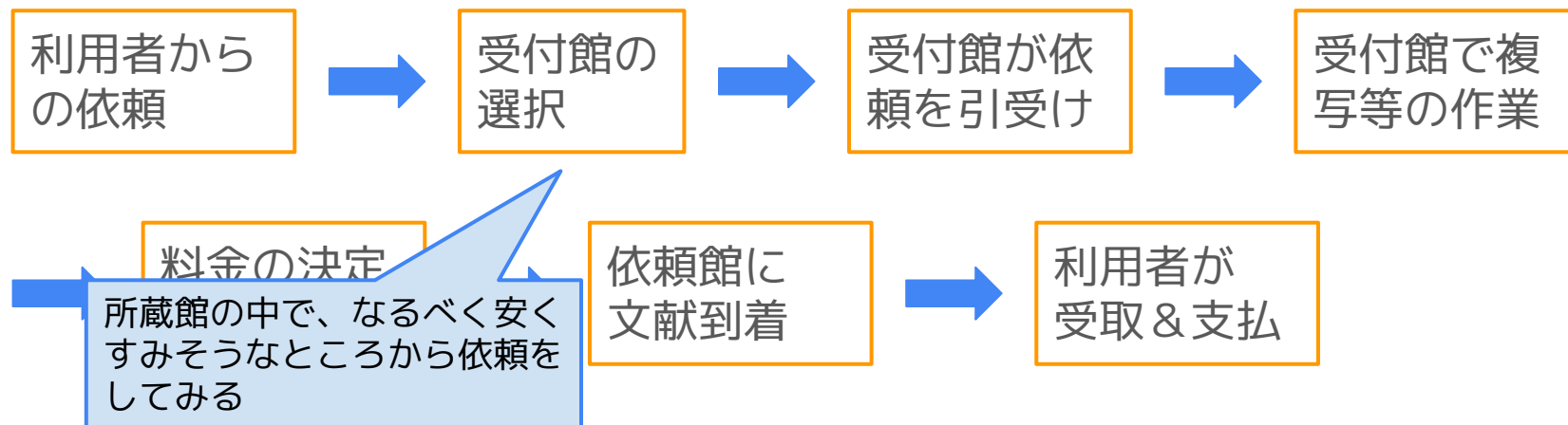
- 事前に料金がわからない（後払い）
- 電子じゃなくて紙での受け渡し（届くのが遅い＆不便）
- 決済方法が窓口で現金のみ（私費の場合。依頼館による）
- 受け取りに来ない利用者がある（私費の場合は料金も踏み倒しに…）
- 所蔵状況と料金を考慮して依頼先を選定するのが負担（謝絶されることもある）

現在のNACSIS-ILLの流れ（文献複写の場合）

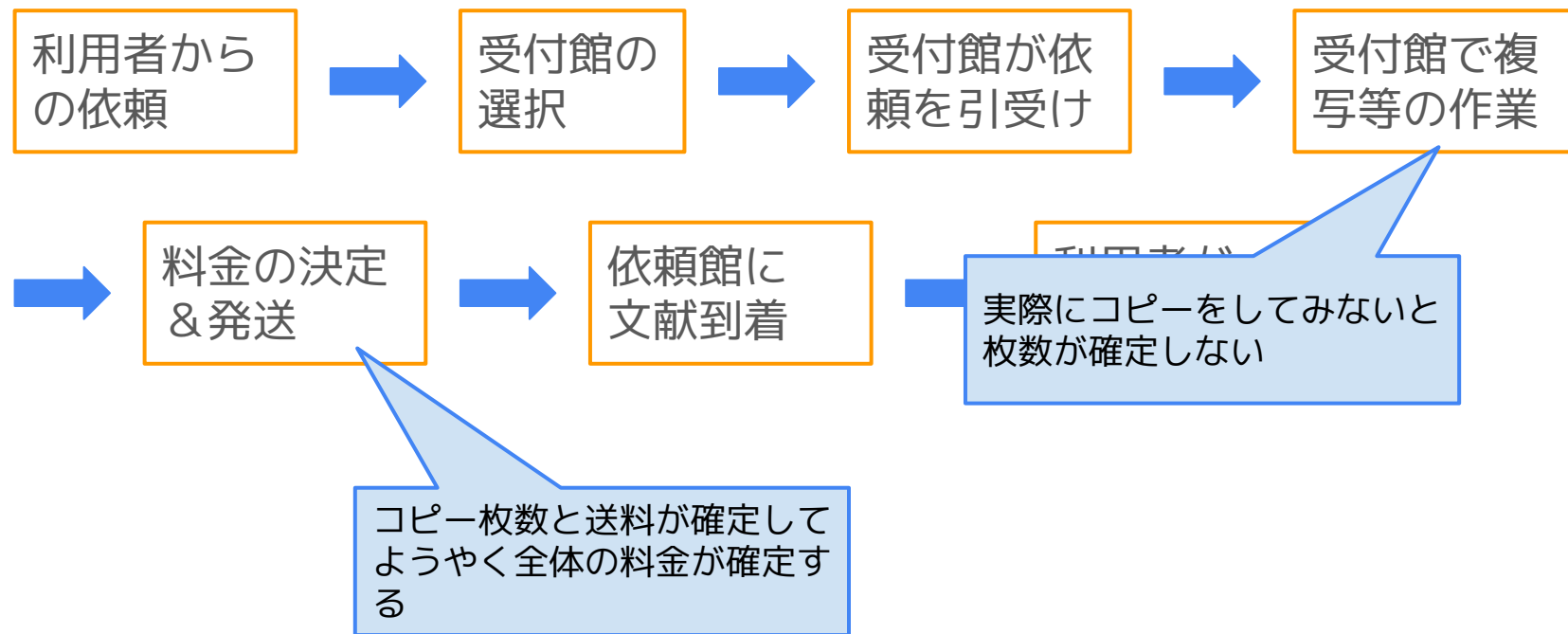


※ 今回の話題に関係がある部分のみを抜粋

現在のNACSIS-ILLの流れ（文献複写の場合）

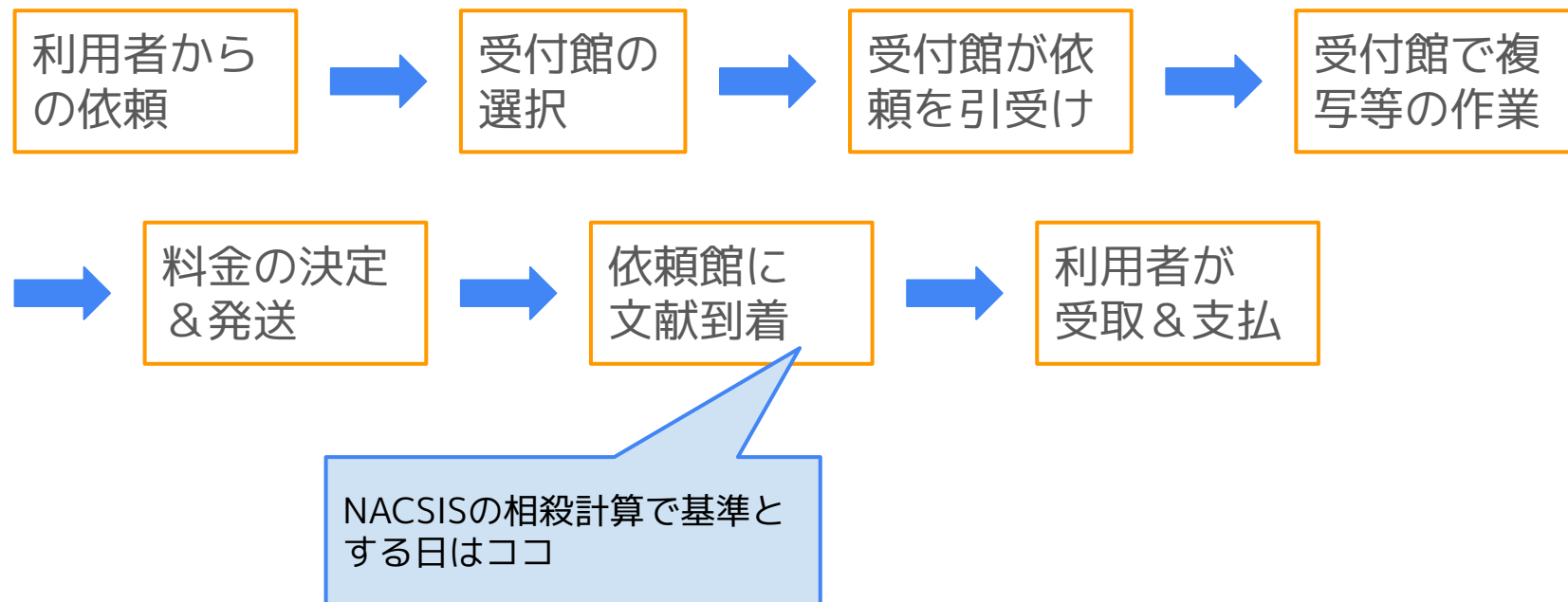


現在のNACSIS-ILLの流れ（文献複写の場合）



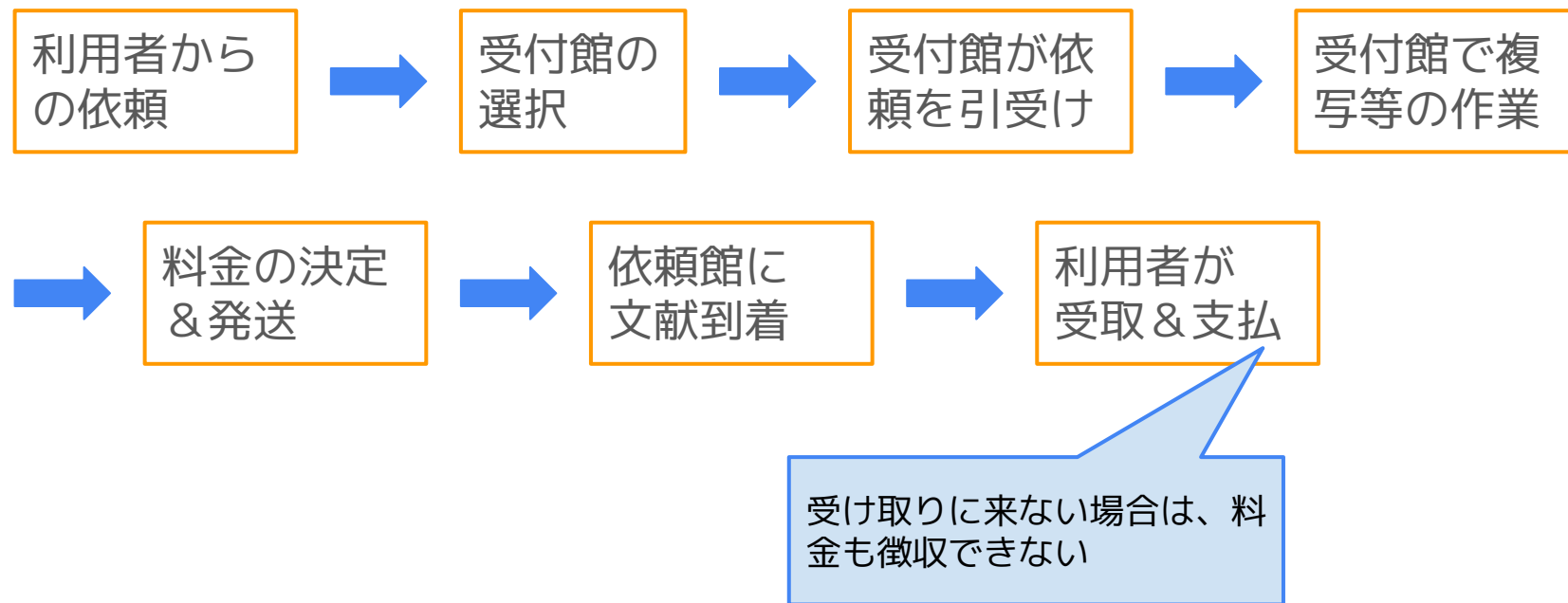
※ 今回の話題に関係がある部分のみを抜粋

現在のNACSIS-ILLの流れ（文献複写の場合）

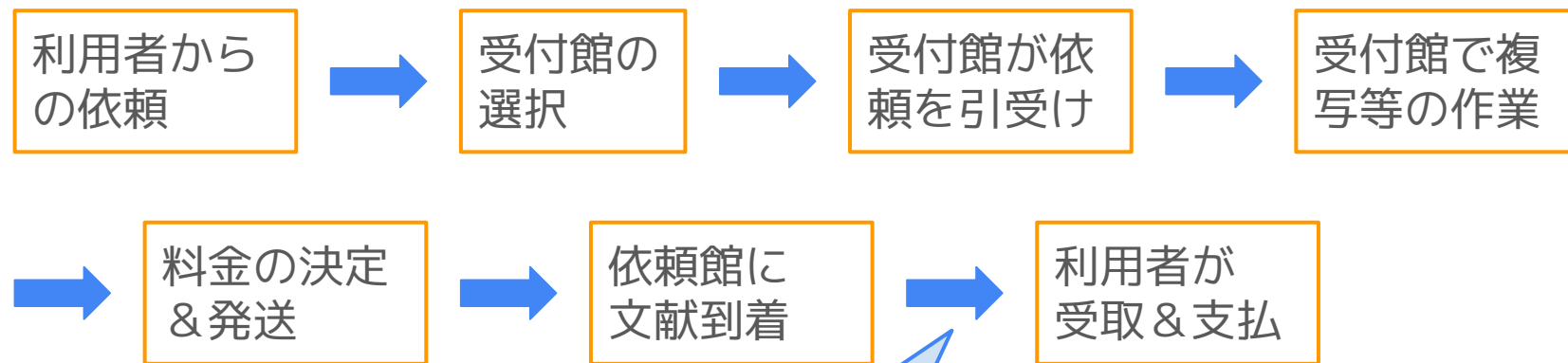


※ 今回の話題に関係がある部分のみを抜粋

現在のNACSIS-ILLの流れ（文献複写の場合）

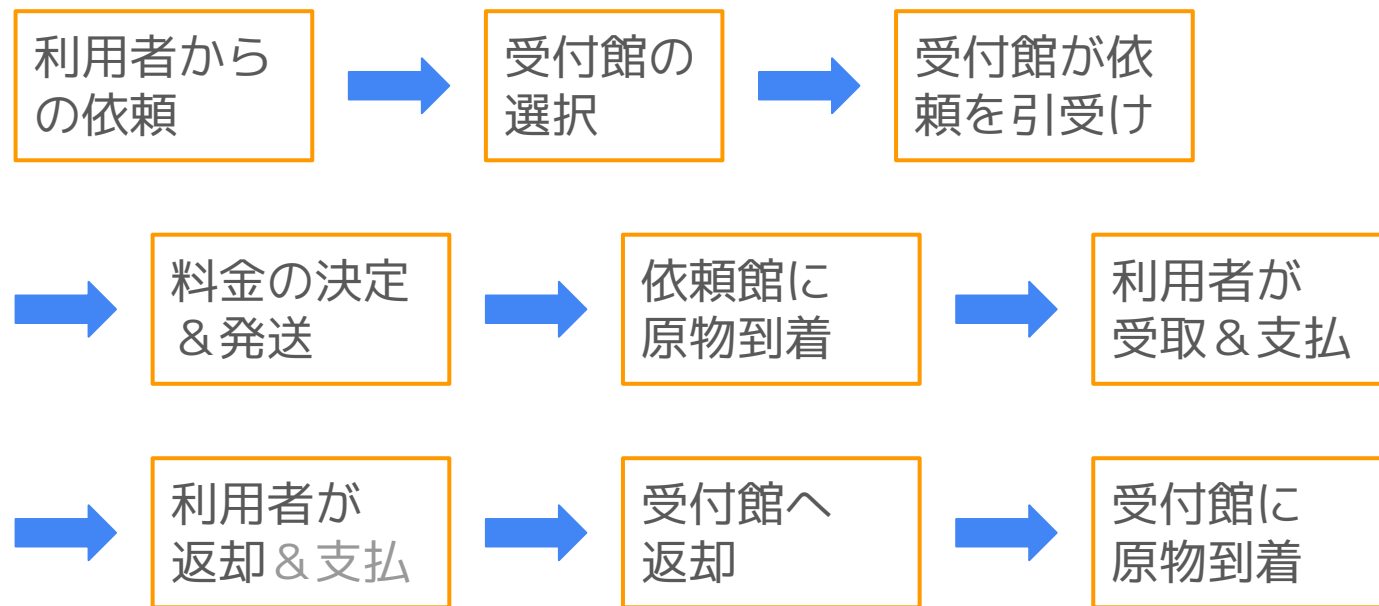


現在のNACSIS-ILLの流れ（文献複写の場合）



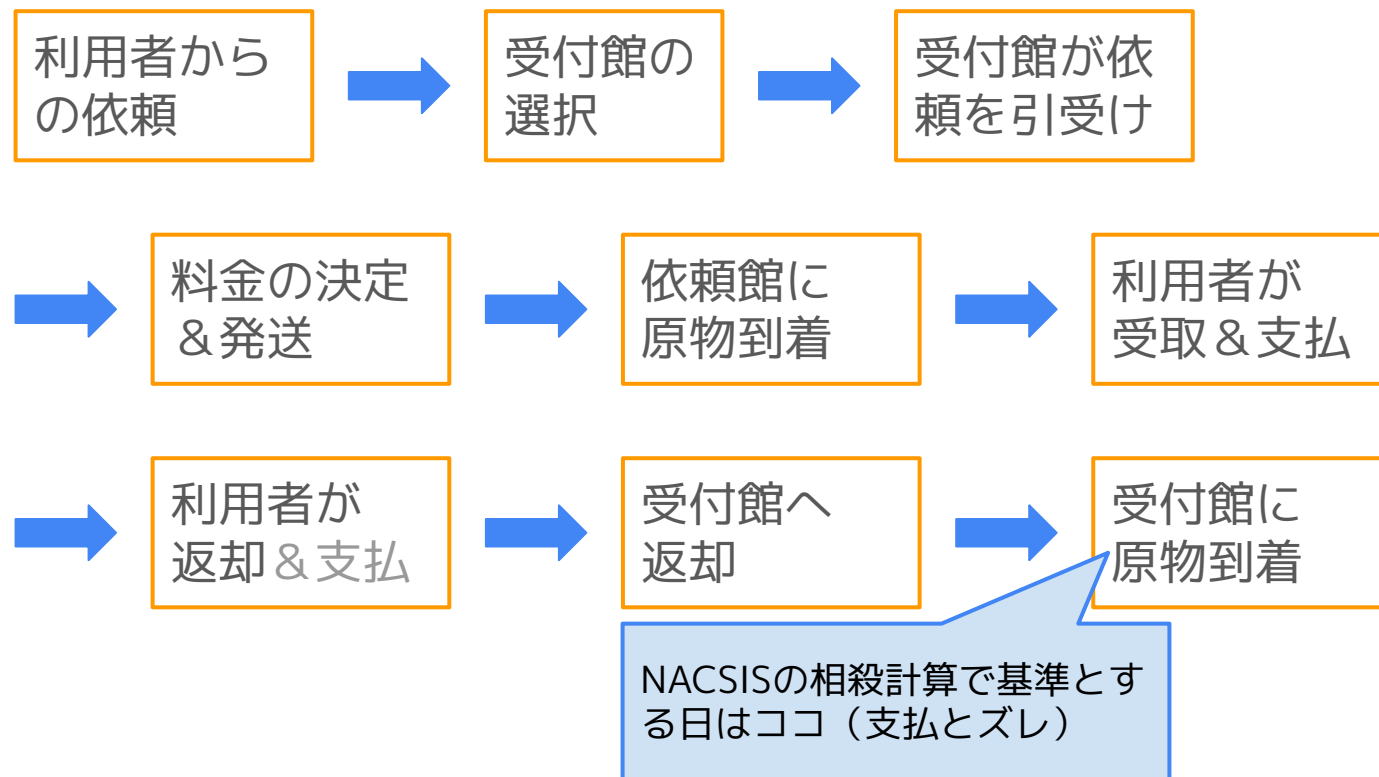
相殺タイミングと料金徴収タイミングが違うので、自館内での会計処理にズレが発生する。特に月を跨いだ時にどう会計処理（解釈）するか…。

現在のNACSIS-ILLの流れ（原物貸借の場合）



※ 今回の話題に関係がある部分のみを抜粋

現在のNACSIS-ILLの流れ（原物貸借の場合）



※ 今回の話題に関係がある部分のみを抜粋

現在のNACSIS-ILLの課題（再掲）

受付館によらず、全国で一律料金化
又は 前払いにする

- 事前に料金がわからない（後払い）
- 電子じゃなくて紙での受け渡し（届くのが遅い＆不便）
- 決済方法が窓口で現金のみ（私費の場合。依頼館による）
- 受け取りに来ない利用者がいる（私費の場合は料金も踏み倒しに…）
- 所蔵状況と料金を考慮して依頼先を選定するのが負担（謝絶されることもある）

「受付館によらず、全国で一律料金化」のメリ・デメ

メリット	デメリット
● 依頼前に料金が確定する ● 複写枚数を気にしなくて良い ● 依頼先を考えるとときに、料金を考えなくてよくなる	● 複写枚数によらずに一定の料金にする必要がある ● 複写枚数が少ない場合、利用者にとって割高な料金になる ● 複写枚数が多い場合、受付館の労力と収入が見合わない

「前払いにする」のメリット・デメリット

メリット	デメリット
● 依頼前に料金が確定する ● 料金の未納を防げる	● 受付館は一旦、複写枚数と送料の確認をした状態で、料金の支払を待機する必要がある ● 料金が支払われなかった場合は、↑の作業が完全な無駄になる ● NACSIS-ILL側で料金支払済みを検知するための決済システムが必要

現在のNACSIS-ILLの課題（再掲）

- 事前に料金がわからない（後払い）
- 電子じゃなくて紙での受け渡し（届くのが遅い＆不便）
- 決済方法が窓口で現金のみ（私費の場合。依頼館による）
- 受け取りに来ない利用者がいる（私費の場合は料金も踏み倒しに…）
- 所蔵状況と料金を考慮して依頼先が断られることもある）

今回はアンタッチャブルで

現在のNACSIS-ILLの課題（再掲）

- 事前に料金がわからない（後払い）
- 電子じゃなくて紙での受け渡し（届くのが遅い＆不便）
- 決済方法が窓口で現金のみ（私費の場合。依頼館による）
- 受け取りに来ない利用者がある（私費の場合は料金も踏み倒しに…）
- 所蔵状況と料金を考慮して依頼先を絞るのが負担（謝絶されることもある）

利用者の料金無償化
又は NACSIS参加館間の料金無償化
又は NACSISが決済代行も行う

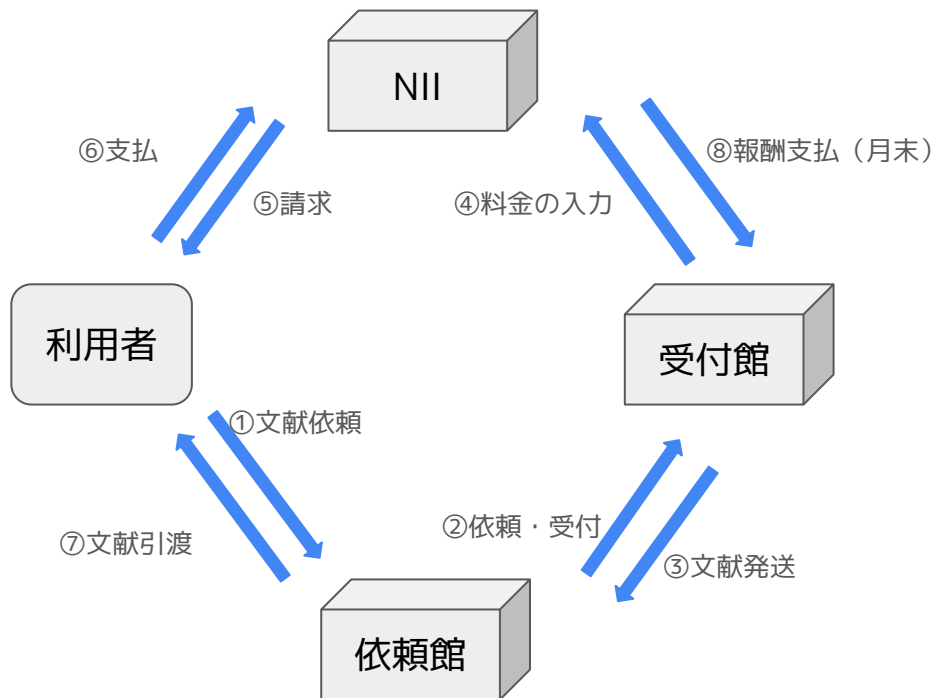
「利用者の料金無償化」のメリット・デメリット

メリット	デメリット
● 料金収納を考えなくてよい ● 利用者にとっては無料でハッピー ● 受取に來なかつた複写物をサクッと捨てることができる	● 「無料だから」とハードル無しに文献複写を依頼される可能性があるため、ILL業務が増える可能性が高い ● 依頼館の予算確保が必要

「NACSIS参加館間の料金無償化」のメリ・デメ

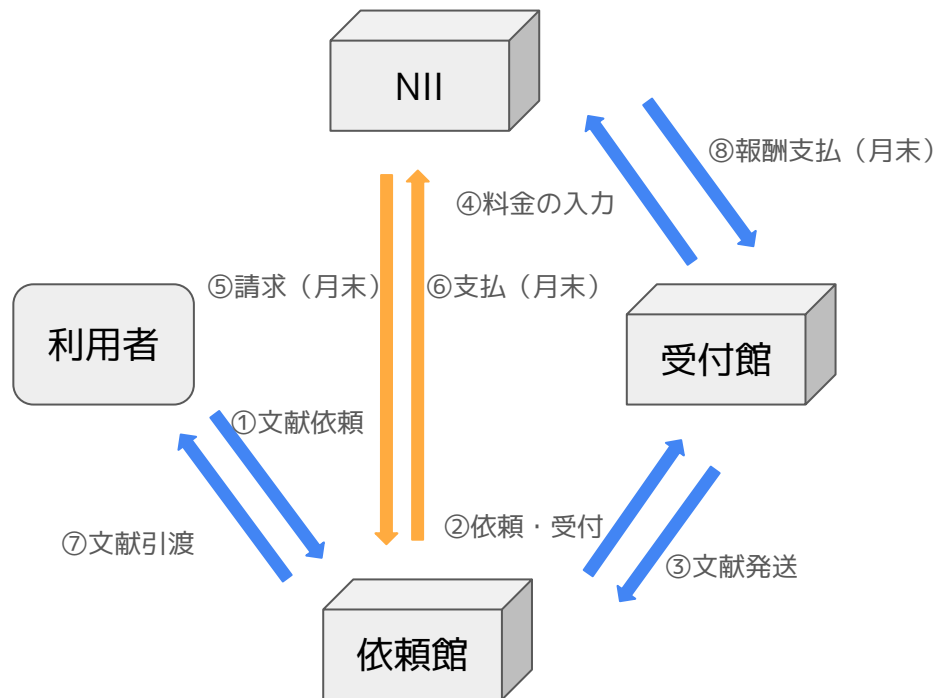
メリット	デメリット
● 依頼先を選定する労力の軽減 ● それぞれの館での会計が単純化（相殺が一切絡んでこなくなる）	● 料金の高低による需要の調整が難しいので、蔵書が多い大型館の受付業務負担が大きい ● ↑のために、依頼を平準化する仕組みもNACSIS上に必要 ● 参加館間の不公平感を無くすためにも、前年の依頼数・受付数等に応じた年間料金制にする必要がある

「NACSISが決済代行も行う」について（私費の場合）



- 決済代行をNIIが行う
- コンビニ払いやクレジットカード等の複数の決済方法を利用者が選べる（依頼館の窓口では決済しない）
- 受付館への報酬（複写料金・送料）は月末締めでNIIから支払

「NACSISが決済代行も行う」について（公費の場合）



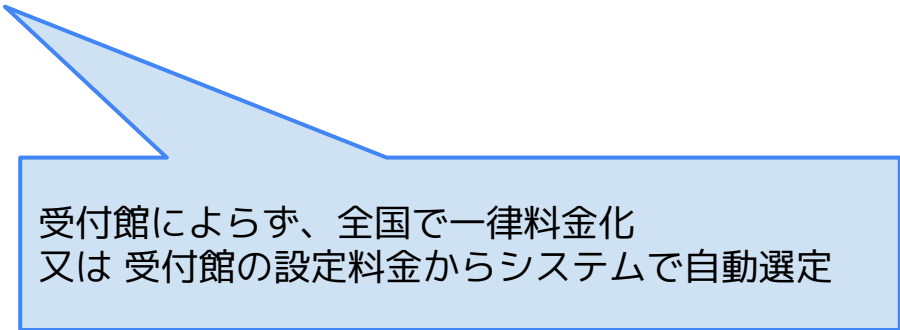
- 公費の場合は、月末締めでNIIから依頼館へ請求（請求書払い）

「NACSISが決済代行も行う」のメリット・デメリット

メリット	デメリット
● それぞれの館での会計が単純化（受付した分がNIIから振り込まれるだけで、相殺が一切絡んでこなくなる） ● 全ての参加館が電子決済を簡単に導入できるようになる ● 窓口での料金のやりとりが無くなる	● NIIに債権譲渡する必要がある ● 未納の場合にどうやってNIIに支払うか（依頼館の公費で負担？） ● <u>↑NIIへの負担がかなり大きい</u> ● 法令的にOKかのチェックも必要 ● せめて食い逃げを防ぐために、支払済みかどうかをチェックしてから文献を渡す必要がある？ ● 請求書発送のために、利用者の連絡先をNIIに引き渡す必要がある（もしくは依頼館が利用者へ転送する）

現在のNACSIS-ILLの課題（再掲）

- 事前に料金がわからない（後払い）
- 電子じゃなくて紙での受け渡し（届くのが遅い＆不便）
- 決済方法が窓口で現金のみ（私費の場合。依頼館による）
- 受け取りに来ない利用者がいる（私費の場合は料金も踏み倒しに…）
- 所蔵状況と料金を考慮して依頼先を選定するのが負担（謝絶されることもある）



受付館によらず、全国で一律料金化
又は 受付館の設定料金からシステムで自動選定

「受付館の設定料金からシステムで自動選定」のメリ・デメ

メリット	デメリット
● 依頼先を考えなくて良い ● むしろ依頼する業務自体をほぼ完全に無くすことも可能	● 依頼業務を完全自動化した場合は、利用者の書誌間違い等のフォローはできない